

No.1

東京生薬協会 会 報

1962.4

発行所

社団法人東京生薬協会

東京都千代田区丸の内3-1

東京都衛生局薬務部 気付

電(201)5211 内線 2675
2677

復刊の辞

社団法人東京生薬協会

会長 鈴木 万平

昭和二十八年東京都方、都内の生薬業者、生薬を原料として使用する製薬業者、その他生薬関係の各位が優良生薬の完全需給と利用開発のため、生薬生産の助長、生薬製剤活用指導、薬効の研究、生薬に關する正しい知識の普及などを目的として本会を結成されてから約十年の歳月を経過致しました。この間における生薬界の状況は、印度蛇木のように新医薬品としての用途の開発を見る一面、進歩した医学をしてもおお及ばない病気のために漢方が見直されいわゆる漢方ブームをひき起すということもあつて、その発展には目覚ましいものがあります。本会と致しましてはこれに應じて御承知の通り種々の事業を行つて参りました。生薬が製薬界に占める重要性に鑑みまして、常に会員相互の緊密な連絡の下に会の事業をより充実せしめることが所要であります。その最も適切な方法として、会報の刊行が挙げられます。本会では昭和三十四年六月十一号発行以後休刊し莫に遺憾に存じておりました。業界の発展と共に会報の必要性が増大して参りましたので、この度復刊することになり第一号が出来致しましたことは皆さんと共に慶びに堪えない次第であります。勿々の間に復刊されましたにも拘わりませず、幸い都庁薬務部のご協力によりまして、相当充実した内容を持つことを得ましたことを心から感謝致します。今後は原則として毎月発行する予定で、体裁も逐次調べて行きたいと存じますが、当分の間は紙面の都合上毎号完結しない記事が多かろうと思ひますから、御愛読の上更に保存されるようお勧め致します。会報によつて会員相互がより一層緊密となり、協会の目的達成に資せられることを期待して、復刊の御挨拶と致します。

復刊を祝して

東京都衛生局薬務部長

引地 滋

昭和三十四年六月、十一号をもつて休刊となつた東京生薬協会会報が三十七年四月から再び発刊されることになつたとのことで非常に結構なことを思います。私もよくいろいろな会に出席させていただいておりますが、会員相互の親睦をはかり、おたがいを結ぶのに会報は缺くことのできない最も重要なものではないかと考えております。南くところによりますと、これからこの会報を毎月発行する予定とのことであり、これによつて新しい生薬の動きや正しい知識を吸収できるようになれば会員とともに大いに喜ばしいことと思ひます。

復刊第一号は、ハページとのことですが将来この会報がさらに厚いものになり、内容も充実したものになるであろうことは、間違のないことと思ひます。この会報がその使命をはたしてお互の親睦を増加し、会員相互の親睦を強化できれば発行の目的は達成されることになるでしょう。

なお、この会報には当薬務部からいろいろな新しい連絡事項、行事予定等、できる限り会員の皆さんに必要事項を収載させていただくつもりでおりますが、参考になれば望外のしあわせと思ひます。

ケシとあへん

ケシから採れる「あへん」は、医療上重要な麻薬の原料で、アルカロイドを含み、その主成分は、モルヒネで、その他ナルコチン、コデイン、パペリン、テバインなど二十余种が含まれており、また「あへん」により、一服の者は、あへんの吸飲、栽培はもちろその歳段、歳源、所持などについて嚴重に禁止されていることは、すでにご承知のことと思う。ケシは南欧、地中海沿岸地方の原産といわれており、その後次第に印度に渡り、あへん製造は太古から印度地方で行なわれたと伝えられる。七、八世紀ころに、アラビヤ人の手により中国に渡り、日本には足利時代に印度から津軽地方に渡つたと思われ、その後、天保時代に大阪地方に広がり、大阪地方ではケシのことを「津軽」と称していた。明治時代になり関西地方を中心に広く栽培されるようになった。現在ケシの主産地である和歌山県下、大阪府下で栽培されている品種は、「一貫種」と称し、白色單瓣花で、だ円形の蒴果を着生する。一貫種は反当あへん収量が一貫匁におよぶところから付けられた名称で、今から約三十七年前、大阪地方において栽培されていた「三島種」の中から発見した一株の優良株を分離、改良したものである。ケシの学名は、

Papaver somniferum. このラテン名の意味は Papa(幼児のかゆ) + Verum(真の) Somnifer(眠らせる)ということで、小児が眠らないときに、かゆに乳汁を加えて与えた意味である。本草綱目には、花と蒴果は煎じて、こしけ、せき、下痢、赤痢に対し、鎮痛剤として用いるとあり、また古いはないであるが、昭和十八年に陸軍軍医団が著した「仏印産薬用植物」に記載されているケシについての現地調査事項の中に、中国においては幼児の激しい泣声を静めるために煎じた種子を冷水で少量飲ませ、また成人には下痢、赤痢に用いるという例があると述べているが、種子にはアルカロイドを含まないので、このような効果はありえないことである。さらに仏印においては種子を軽くいって、やせた産婦なんに処方されるとあるが、これは脂肪油を五〇%も含んでおり栄養になるので適当なことであろう。また蒴果は、あせりを静め、休息を与える薬剤に処方されたと記載されている。あへん中毒治療について、中国人医師の処方例が書いてあるが、これは甘草二九六グラム、貝母二二ニグラム、赤砂糖二九六グラム、あへん残りかす七四グラムを六ぱいの水で、二ぱいになるまで煎じ、朝夕の二回、小わんに少量の熱湯を加えて服用する。飲用後、あへん吸煙者はただちに半熱の卵三個を食すとある。安南人薬剤師の処方方は、橘の果皮三七グラム、貝母一、一グラム、

甘草三七グラム、白豆蔻一八五グラム、蜂蜜三七グラム、調製あへん七四グラムを、最初に土鍋中で調製あへんを熱湯一五リットルで処理し、攪はんしたのち、他の混合物を入れ四分の三リットルに煮つめる。發中毒者には、四分の三リットルを一日三回用い、通常の中毒者は二日に六回で、以上の量を用いるとあるが、はたしてその効果があるか否かについては不明である。

俳句

深大寺にて

石松子

重力を 小りきり高さを 積むひばり

心のひだに 囁り透り 禁煙区

蕎麦は 機械に堕ちて囁り 薄っぺら

鱒の密議 水草の陰を 出っ入りつゝ

東風を染め 匂う産磨の 土絵具

鳥曇り 寄進の札に 憎筆を囁む

梅咲かぬ 日陰の枝枝 みくじの花

市販生薬の調査結果について

東京都衛生局薬務部禁薬衛生課において、昨年薬品検査車により都内の漢薬店を見廻り市販生薬の品質について調査したが、この試験調査であまり良くなかつた実例について、先ずゲンノシヨウコから述べることにする。

①承知の通りゲンノシヨウコはフウロソウ科 *Geranium a. Caeae* の多年草で学名は *Geranium nepalense Sweet* であり、日本各地に自生し、地方によつてタマナグサ、ネコアシ、ネコアシグサ、テキメンリウセキリグサ、ミコシグサ、等と云われている。

このゲンノシヨウコに似た植物にイブキフウロ、タチフウロ、コフウロ、シコクフウロ、ツクシフウロ、イチゲフウロ、等同属植物があり、その他オランダフウロ属、トリカブト属、ウマノアシガタ属等多くの植物があり、ゲンノシヨウコを採取する場合、間違えない様に注意しなければならぬ。

又、ゲンノシヨウコは全草中にタンニン、没食子酸、コハク酸、クエルセニン、その他の配糖体、無機質等を含有し、特にタンニンは葉に多く収斂止泻薬として有効である。

ゲンノシヨウコは日本薬局方第二部で大略次の内容

の規定がある。ゲンノシヨウコは夏期の茎葉を乾燥したるので、その性状は茎及び対生葉からなり、茎は細長く緑褐色を呈し、茎葉共に軟毛を帯びる。葉は長い葉柄を有し、灰黄緑色く灰褐色を呈し、掌状に3〜5裂し、長さ2〜4cm、裂片は長楕円形又は倒卵形をなし、その上部の辺縁には鈍キ牙齒がある。本品はほとんど無臭で味は收れん性である。確認試験では水浸液（煮沸）について塩化第二鉄試験によるタンニンの藍色の呈色、純度試験では①花及び果実が10%以下、②水製エキスは10%以上、灰分は7%以下、酸不溶性灰分は1%以下である事、市販ゲンノシヨウコ二の件について局方試験で調べた所まずゲンノシヨウコの根その他の植物等の異物が入っていた、異物の多いもので20%あり、平均では10%であり、花及び果実は非常に少なかつた。全試験品の茎と葉と根の割合は平均すると6:3:1であり、このうち一部に大葉葉の少ないものがあり、葉が二割以下のものが4件あった。水製エキスを定量した結果はすべて悉く平均10.5%であった。この事は注意すべき事であり、その原因はゲンノシヨウコを採取する時期がよくないのではないか、すなわち比較的夏、花の咲いている時期が最も充実に採取するに適した時であるが、この時期に採つたものでは無いのではないか、と云う事が考えられ、又、この事は花及び果実が非常に少なかつた事と一致する。

なおこの点の理由等について今後研究する予定である。
一方、確認試験ではすべて呈色反応を呈した。

灰分は半数以上が悪く、平均すると72%で一部に土砂の着しいものがあり、この灰分は96%であった。これらゲンノシヨウゴは全体に外観上、土、ほこり等で汚れており清潔ではなかつた。この様に土砂等の異物、特に根の混入の着しいものは生薬として現地調製が粗雑であることが解り、ゲンノシヨウゴを根ごと採取し、風乾し調製しているために根の土が混入するのである。

次に十薬については、日本薬局方第二部の規定でジュウヤクはドクダミの花期の地上部を乾燥したものであり純度試験で根、根茎、その他の異物を2%以上混有してはならない規定があるが、これ以上の異物を混有するものが一九件中九件あつた。その異物の内、大部分は根、根茎で多いものは25%であつた。ドクダミはドクダミ科の山野の湿地に生えている多年草である。採取する場合、地上部を刈り取り、根、根茎を混入しない様にしなければならぬ。

その他カビの着生したものの、昆虫の巢喰っている生薬を発見した。即ち表門冬でカビ、昆虫両方着生しているもの、一〇件四件あつた。地黄はカビ昆虫各々一九件中四件、知母はカビ、昆虫各々八件中一件、その他カビの着生していたもの午膳一件、昆虫の巢喰つてい

るもの大黃、大茴香、各々一件を見出した。

この様に多くカビ、昆虫が生薬に着生している事は生薬の現状の保存方法が悪いためでこれを改善する必要がある。すなわち調査した漢薬店の保存法はほとんど例によつて百味算筒を使用している、一部では木箱そのものに虫が巢喰つているもの、カビの着生したものがあつたが、百味算筒はすさまじく多くあつて虫が入り易く、又湿気を吸い易い欠点がある。

漢方薬は古くから、これを用いているのであるが品質を損なわぬ様に保存するには不適当である。この生薬を保存する容器としてはガラスびん、又はお茶を入れる缶を用いる事が適当であらう。なお、生薬は常に良く観察し多量にカビ、昆虫の着生しない様に注意が必要であり、カビ、昆虫等少し着生し始めた時はこれを除き全体に拭がらない様にしなければならぬ。出来れば電気乾燥器を用い40℃以下で乾燥し、カビ着生を防止する事が望ましい。



東京都薬用植物園だより

昨年一〇月の初旬には種されけし、寒い冬をじつとこらえて、この週では三〇センチばかりに伸びました。つい一ヶ月ほど前までは草丈が一〇センチほどで霜柱のあいだから寒むような姿を見せていたと思つたら、今ではおしろいで薄化粧をした若々しい緑色の着物で元氣よく立上がつて、四月の風に氣持よさそうになびいています。五月の二〇日には草丈もぐんと伸びて一メートルぐらゐになり、恥ずかしそうにうつむいていたつぼみも、二、三日で急に首をあげ、美しい花を開きます。この花は午前一〇時ごろに開いたと慰うと、夕ぐれどきには花弁がヒラリ／＼、まったく込みじかしけしの花」というわけです。薬草園のけしの見ごろは、五月一五日から二三日のあいだで、二〇日ごろには、けし坊主に傷をつけ、採汁を始めるようになり、そこでけしの花をご覧になるには、一五日から二〇日ごろがよく、採汁は二〇日から月末までということになります。ご存知のようにけしの栽培は厚生大臣の許可がいりますので、もし産先などで造っているのを見たら、採取するように注意してあげてください。都内で栽培が許可されているのは、この薬草園だけなのです。

武蔵野の雑木林も新緑にもえて、最も美しいころです。

月です。初旬から中旬にかけて、白や紫のにおいしいうぶ（ヘイリス根の原植物）が咲きそろい、紫紅色のじきじきする花をつけるのが下旬ころ。またかみつれ（分ミツレ花）の白い花も初旬から下旬にかけて見られます。むしろけし（除虫菊）の中、下旬ころ、白や紅の花をつけ、一年中で花の美しい薬草園は五月ということになるわけです。鎮咳剤の原料となるたぢい、やこうそ、うそ、初旬から下旬にかけて薄紫の小さい花を見せてくれます。

園場では、いやくやくの花が美しく、四月にまいたえびすぐさの若芽が、黒褐色の土の色に一段とさえてうす緑の顔色のぞかれています。こんな時期にこそご家族ずれでハイキングに出かけられ、薬草園の美しい空気を胸一パイに味わっていたら、おのづから上を向いて歩きたくぬるというものです。また、薬草園からバスで一〇分ほどのところに、都民の水源となつている村山貯水池もあり、立川駅から二〇分ばかりで多摩動物園に行かれます。薬草園では皆様のご来園をお待ちしております。



本会主催第三回

漢方医薬講座に就いて

常務理事 栗原 玄 三

夢(ことわざ)に画に書いた餅は飢えをいさぐに足らぬ」と申します。何事も実用化しなければわれわれの生活に役立つことが眼目である。だから徒らに高遠の理想や、むずかしい理論を學んだところでそれが時代の流れとかけ離れていては役に立たない。それかといって目先きのハツタリばかりでは忽ち、すたりますことは、ちやうど衣服や流行の頃みたいなものです。本会主催の漢方講座は既に第二回を終り第三回をこの四月二十一日から毎月の第一と第三土曜の二回、午後一時半から全四時半まで一ヶ年を通じて連続講義をする次第ですが、趣旨とする處は前記の通りで、第一に漢方医薬を通して世のため人のためになること、その取扱者である専門業者は勿論、漢方薬を資材として新たなしい治療薬を創製したい人、或は古来伝統の本草医薬に対して興味を持たれる薬事同好者のために正しい智識を修得せしめ、これが活用に使便を与える方針であります。この度の第三回講義はこれまでの二回に亘る講義の内容とはいささか趣むぎを、かえて次ぎの通りであるが、然し、初めて入会される方、初歩の人にも、理解のできるようになっています。

◎漢方薬の生薬學の解説、市場品の理解と選品に必要な智識、漢方医学に対する基本的智識とその応用及び現代に行はれてゐる漢方医学の大體……いいかえれば日刊新聞や週刊誌、雑誌などに掲載される漢方医薬療法に対してその取扱者たる漢方専門業者がその漢方薬を求めに來たる人々に対し正確なる指導と使用法をよく説明の出来るように智見をゆたかにすること。

◎右の目的を達するためには、邦産薬用植物、藥用生薬などについて、本草學、藥理學、製劑學などの見地から解説しなければならぬ。

また、邦産薬用植物や古来伝統の民間藥の智識を修得してこれを製劑化し、藥石製劑とすることはいうに及ばず、広く医薬製劑として事業化する人のために、一言にしていうならば製劑原料の發見を容易ならしめること、かような考えを持ちまして講師陣に新たに御願ひし適切な御講義をプリントによつて詳述して貰います。が詳細については本会へ申込み下さい。新入会者にと容易に概要を修得せしめ、継続—聴講者にもその智識をより多くゆたかにして斯等活用のコツを悟らしめる。なお、今後、医薬品販賣業の資格を得んとする諸士にはその豊富なる生薬智識が大いに役立つことかと思ひます。

生薬協会総会の

お知らせ

本協会本年度（三十七年度）の
定時総会は、五月下旬開催の予
定です。
日時及び場所は、次号で御知ら
せいたします。

野生薬草採集会について

東京都衛生局薬務部

都で毎年実施しているこの催し
を、本年も下記により第一回を
開催いたします。会員のみならず
多くの多数参加を希望いたします。

東京優良生薬会

総会御案内

日時 四月二十日
午後一時より
会場 松葉町会館（台東区浅草
松葉町三三）
尚、総会終了後新薬事法講習会及
び懇親会を行います。

○日時 昭和37年4月22日（日）

○場所 高尾山

○対象 一都府民

○講師 東葉大教授角倉一先生外

○集合場所、時間

高尾山ケール清滝駅前
午前10時

○昼食 採集具等持参のこと。

○本会漢方相談所

ご案内

場所 上野松坂屋中二階

日時 毎月才三火旺、水旺

午後一時より

○記

○後

後刊第一号を発行するに当り
都方薬務部の全面的ご協力を
得て編集担当理事一同深く感
激している。ご希望や、お気
附の点をお知らせ下さい。